

第3回 大宮駅西口交通結節点事業計画検討会 議事概要

■日時 令和5年12月11日(月) 11:00~12:00

■場所 さいたま新都心合同庁舎2号館5階 501会議室

■出席者

【座長】 一般財団法人 計量計画研究所 代表理事	岸井 隆幸
【委員】 埼玉大学大学院理工学研究科 教授	久保田 尚
東京大学大学院工学系研究科 教授	羽藤 英二(WEB参加)
東日本旅客鉄道(株) グループ経営戦略本部 財務・投資計画部門 投資調査・計画共創ユニットリーダー	片岡 賢司
東日本旅客鉄道(株) 大宮支社 企画総務部 経営戦略ユニットリーダー	伊藤 滋
埼玉県 警察本部 交通部長	荻野 長武 (代理: 金田 敦之)
埼玉県 県土整備部長	金子 勉 (代理: 藤原 直樹)
埼玉県 都市整備部長	山科 昭宏 (代理: 粕谷 平蔵)
さいたま市 副市長	小川 博之
さいたま市 都市局長	篠崎 靖夫 (代理: 佐藤 久弥)
さいたま市 建設局長	小島 文郎 (代理: 藤巻 雄幸)
国土交通省 関東地方整備局 道路部長	野坂 周子
国土交通省 関東地方整備局 建政部長	家田 健一郎
国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所長	中洲 啓太 (※順不同、敬称略)

【事務局】 さいたま市 都市局 都市計画部 交通政策課
国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所 計画課

■議事

- 「交通(道路・鉄道・バス)ネットワークの現状」「さいたま市のまちづくり計画」「防災上の課題や取組状況」について事務局より説明され、コンセプトやまちづくり計画との関係の整理などについて議論した上で、引き続き具体的内容を調整していくことを確認。

<委員からの主な意見>

- さいたま新都心や大宮駅西口周辺の再開発と連携し、結節“点“ではなく、結節“面“または結節“エリア”として捉えた際に、拠点施設がどういう役割を担うか検討する必要がある。
- 大宮駅は首都高の新都心線から約 1km と少し遠く、アクセスが重要。いずれやってくる核都市広域幹線道路では、自動運転高速バスが走る時代になっている可能性があるため、今から高速を降りて拠点施設までどのようにアクセスするのか検討し、必要なインフラについて考えておく必要がある。
- ドライバー不足などの社会的課題を踏まえ、東口・西口合わせて自動走行を中心とした新しい技術の取り込み、実験、実装が必要。西口のコンセプトも歩調を合わせながら考えていく必要がある。
- 自動走行の拠点として考えると、拠点施設や専用空間を誰とどう費用負担するのか、今後そういう事業スキームも合わせて検討する必要がある。
- 大宮停車場線などで道路空間の再編などが進められているが、大宮”エリア”として考える以上、歩行空間は非常に重要である。高齢者も含めた歩行者がどう快適に歩いていけるようになるのか、モビリティの活用も含め地区の交通プランを考えるべきではないか。
- さいたま新都心の将来ビジョンや庁舎移転計画と連携し、首都圏全体の観点から見て、民間（再開発）支援も含めて大宮エリアがどのように役割を果たすか。それらを踏まえ拠点施設の計画に降りてくることになると思う。大宮の東西だけでなく、さいたま新都心とどのようにつなげるかを検討する必要がある。
- さいたま新都心は業務核都市整備の一環として再開発が進み、公的な機関が移ってきた。これからは、更新ニーズが高まっている大宮駅周辺エリアなどとも連携して業務核都市第 2 弾の整備が民間活力を導入して進むと、首都圏全体の強化につながると期待している。

以上